

## 人生は楽しんだもの勝ち！ 移住者が輝けるフィールドを 作り続けたい

### 立花 祐美子（たちばな ゆみこ）さん

生まれも育ちも北海道。2003年に結婚を機に札幌から移住。いくつもの仕事を経て、6年前から下川町の移住コーディネーターとなる。プライベートでもサークル運営やイベント企画、町の委員なども引き受けながら、高校生と小学生の子育てに奮闘するワーママ。

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。19回目となる今回は、下川町の移住コーディネーターとして、下川町への移住の流れをなんとか継続させたいと知恵を絞り、“オンライン”を活用した移住施策にまい進し、全道の志を同じくする移住者仲間とネットワークを着実に広げている立花祐美子さんです。

#### 下川の人になったのはいつですか？

2003年から下川で暮らしています。もう20年になるんですね。大学は隣町の名寄でしたから道北が初めてというわけではないのです。結婚を機に下川に来たので、決意をもって移住者になったわけではないのですよ。夫と子ども二人と、そして町内外の人とのつながりを大切に暮らしています。

#### 下川に暮らし始めたころのお話を聞かせてください

自分たち夫婦のように地元じゃない人が思っていた以上に多くて、移住者が浮くというようなマイナスなことが一切ありませんでした。ありがたいことです。最初は、余りにスムーズに受け入れられることに、え？なぜ？下川って面白いなと思っていました。

暮らしてから分かったことなのですが、下川はかつて鉱山があって、60年前の1960年には人口が約15,000人だったそうです。休山となった1980年ごろで約半数になり、今では約3,000人です。町にそのころから暮らす方々は賑わっていた<sup>にぎ</sup>当時も、がたんと人口が減った時のことも、じわじわ減ってきた最近のこともよく分かっています。だから、「下川を選んでくれて嬉しいよ、よく来てくれたね」と心から思い、その気持ちを口に出して伝えてくださるんです。なんとかしてこの町を維持したいという強い思いが根底にあり、移住者を受け入れることが当たり前の“下川の独特な文化”

を創り出しているように思います。

### 移住コーディネーターとしての日々の仕事は？

そうですね、移住希望者へのオンライン・オフラインでの対応と、移住イベントの企画・実施、起業家の誘致・伴走支援などです。移住支援を行う「タウンプロモーション推進部」の一員として、空き家担当、仕事担当たちと連携しながら仕事をしています。一緒に下川暮らしを楽しむ仲間を探す毎日です。

### 下川の“トクベツ”を教えてください

はい、それは「お母さんたちがいきいきしている町」だということですね。お母さんたちが主体的にチームを作って無理なく活動をしているのが、とっても魅力的なんです。私は自身も小学生と高校生の子どもの育てながら仕事していますが、同世代はもちろんのこともっと若いママさん世代も本当に才能があって輝いているんですよ。子育て中って、お母さんが1人で抱えて身なりにも構えず、自分の人生はそっこのけという人が多いのが一般的ですよ。でも、下川のお母さんにはそういう方が少ない気がします。自分のやりたいことを我慢せずに取り組むためにチームで動く。無理をせずに好きを大切に活動しているお母さんが多いと、それを近くで見ている子どもも家族も幸せになる、そんな家族が多い町は素敵なお町だなあって思います。

### お母さんたちの活動を具体的に教えてください

下川には町民が作った森のようちえん「カカラ」があり、そこではお母さんたちが主体的に運営に関わって活動しています。他にも「りくらしネット」という、自分たちの暮らしを足元から見つめ直してできることから変えていこうとするグループもあります。町内のおむつ替えが可能な場所や子どものあそび場を集めたMAPを作って、移住者や移住希望者のママたちに大人気なんです。森のてしごとや」というサークルでは、町にたくさんいるママさんのハンドメイド作家が集まり、イベント出展しています。当番制で一人の負担を減らして楽しめるようなスタイルを確立しています。最近では、女性たちの自由な発想をまちづくりに活かすべきと、下川の各種委員会は女性率が高めなんです。

### 全道の仲間と進めるネットワークについて教えてください

「北海道移住のすゝめ」の事務局をしています。現在の参加自治体は15前後です。設立のきっかけは、道内の自治体の枠を超えた移住コーディネーター同士のオンラインランチ会でした。そこで「移住を検討する人の目線に立った、移住イベントって少ないよね」という話が出てきたのです。また、当時は北海道のコロナ感染者が多かったこともあり、本州からの移住ツアー参加者からもキャンセルが相次ぎ、何とかしなくてはと危機感がありました。そんなタイミングだったので、「ないならオンラインの移住イベントを自分たちで作っちゃえ！」と話が進み、顔が見える関係が構築されていた仲間とスタートしようという流れでした。

2021年3月に最初のオンラインイベントを開催。その後も3ヵ月に1度小さめの移住交流イベントと、年に1度大きなイベントを行っています。おかげさまで、今年の2月に行ったイベントでは、動画配信の視聴回数が当日だけで1,000を超えました。参加者からは、「初めて知った自治体との偶然の出会いがよかった」「移住準備の進め方が具体的に分かって助かった」との声があり、これは続けるべきだとモチベーションが上がりました。

活動は情報発信の媒体ごと（note、YouTubeなど）の委員会、内部の勉強会の企画をする委員会などがあります。各委員長が集まった会議も定期的に行い、イベント企画などについて話し合っています。毎回、こんなに優秀で素敵な人たちとつながっていて私ってなんて幸せなんだろう！と思います。これほど楽しい会議、ミーティングって経験したことがないほどワクワクする時間です。

（2022年10月取材）

#### インタビュー後記

移住コーディネーターとしての6年で、何人ぐらいの移住者を下川にお呼びしたの？と質問すると、「120人ぐらいかな？」とさらっとお答えになる祐美子さん。3,000人分の120人と考えると、彼女の実力が分かっちゃいますよね。柔軟で行動力があって好奇心旺盛、人としてとっても魅力的な移住コーディネーターさん、最強です。  
かとう けいこ（株）まちづくり観光デザインセンター代表